



学校だより

文責 校長 伊藤 由美子

光る目・光る心・光る汗の一貴山っ子

いっしょうけんめいの目で勉強

きもちのよい心であいさつ

たくさんあせを流して運動・掃除

◇ふるさと学習「お膳座り」の授業◇



去る1月22日(土)、6年生では、一貴山小学校の伝統となって受け継がれてきた「お膳座り」の授業が行われました。お膳座りは、一貴山小学校初代校長である徳田先生が、卒業生の前途を祝うとともに、社会に出ても恥ずかしくないような作法を身に付けさせるために、礼儀作法やお膳の食べ方等の作法の指導を兼ねて始められたもので、明治21年(1888年)ごろから始まったとされています。

学習は、①一貴山小学校の始まり→②旌表旗(せいひょうき)について→③お膳座りについて→④作法の体験、と進んでいきました。

作法の起こりは室町時代で、その礼儀作法は現代に受け継がれています。作法の根本にある考えは、「相手を大切に思う心」であることを知り、実際に自分で「礼の仕方」「箸のマナー」「箸の持ち方」、「椀の持ち方」を体験しました。

箸の持ち方や、お椀の持ち方など、はじめは、動きが硬くぎこちなかった子どもたちですが、何回か繰り返して練習するうちにだんだん動きがスムーズで美しくなっていました。

【6年生児童の感想から】

- この一貴山小学校の伝統を大切にして、次の人たちに伝えていくことを心がけようと思いました。そして、相手を大切に思う心を持ち続けたいと思いました。
- お膳座りに込められた願いについて知ることができ、相手を大切に思う心をしっかりと身につけ、中学校へ向けて、頑張っていきたいと思いました。
- 真・行・草は、相手を大切に思う気持ちを表していて、社会に出ても大切だと思った。家でも、行儀のよい箸の使い方をしようと思いました。
- もうすぐ卒業なので一貴山小学校で卒業できることに誇りをもって卒業したいなと思いました。これからも一貴山小の伝統「お膳座り」を活用していきたいと思いました。



◇いつもおいしい給食、ありがとうございます！給食記念週間◇

1月末から、各学級で給食記念日についての学級指導を行いました。この授業は、給食記念週間（1/24～30）を機会に、給食の歴史や仕組みを知り、給食と給食調理員さんをはじめ、給食に携わる人々に対する感謝の気持ちを育てることをねらいとしています。

子どもたち全員で学年ごとに、いつも安全でおいしい給食を作ってくださいる調理員さんにプレゼントを渡しました。給食室前に掲示してあります。

日本の学校給食は、明治22年に始まり、各地に広がっていきましたが、太平洋戦争の影響などによって中断されました。しかし、戦後の食糧難により児童の栄養状態が悪化したため、学校給食再開の声が高まり、昭和21年12月24日、東京の一部の学校で学校給食が再開されました。この日は冬休みになることがあるため、1ヶ月後の1月24日を「学校給食記念日」とし、1月24日から30日までを「全国学校給食週間」と定められています。



◇新型コロナウイルス感染予防に細心の注意を！◇

ご承知の通り、福岡県における「まん延防止等重点措置」の2月20日での解除は難しいようです。引き続き、学校でも感染予防策に取り組んでいきます。ご家庭でも、マスク着用、手洗い、身体的距離、三密の回避などの基本的な感染防止対策の徹底をお願いします。

※ 小学生だけではなく、同居の御家族がPCR検査を受けられることが決まった時点で、小学校への御連絡をお願いします。また、御家族の検査結果が判明するまでは、登校はできません。



◇春がもうそこまで。◇



新型コロナウイルス感染予防のため、さまざまなことが中止になったり、制限されたりと、何かと不自由さを感じてしまう日々が続きますが、周りに目をやると、春は確実に近づいてきています。学校の周りにもたくさんの春の気配が感じられます。1年生のチューリップも、芽が出始めました。

※中庭に咲いている梅は、「源平梅（げんぺいうめ）」といい、一つの木に紅白の花が咲くので、縁起がよいと言われています。

